

# 「日本に誇りを」で

考えたこと

森 清勇 陸自62

はじめに

天皇陛下が来年にも譲位されること  
が決まった。国家の象徴と位置付けら  
れる天皇位が革命でなく、歴史と伝統  
に裏付けられた「取り決め」で平和裏  
に委譲される。日本人にとっては「当  
たり前」でも、200余カ国ある国際  
社会では希有なことである。これこそ  
「日本の誇り」であろう。

「日本に誇りを」は、すでに会員か  
ら見解などが発表されているので追っ  
て考えるのも烏滸がましいが、偕行誌  
の文言「英霊に敬意を。日本に誇りを。」  
は敬意も誇りも薄まっている現状に鑑  
み、高める努力が必要ではないかとい  
う呼びかけでもあるように思える。

しかも、それが出来るのは、「身を  
もって国民の負託に応える」と宣誓し、  
現役を退いたあとと肉体的な貢献がで  
きない分、意識的には止揚（アウフ  
ヘーベン）さえしている偕行会員をお  
いてほかにないという自負さえ読み取  
れるが如何であるうか。

明確にしたい皇位の男系継承

何を言っても言及したいのは、譲位  
に関して民進党をはじめとした野党の  
要望から、付帯決議に女性宮家の創設  
を検討することが明記されたことにつ  
いてである。

推古天皇など8人10代（一人は重祚）  
の女性天皇が存在されたことは歴史の  
事実である。女帝でも問題ないと論じ  
る識者は、過去に存在された事実を例  
示するが、立位された事情については  
ほとんど論じない。

女帝が立位されたのは、次の天皇が  
幼少であったり、紛糾の兆しからの緩  
衝の立場からであり、女性天皇が中御  
帝（なかつみかど）とも呼ばれた理由  
もここにある。女性天皇を継ぐ天皇には  
先の女性天皇の子（即ち女系）ではな  
く、女性天皇前の男性天皇の子孫（す  
なわち男系）が即位されている。

こうして125代続いてきた皇位  
は、紛れもなく男系天皇により継承さ  
れてきた。この歴史に鑑みても、女性  
宮家、すなわち女系が天皇位の受け皿  
になることはありえないことを確認し  
ておく必要がある。

皇室は神話時代から2677年にわ  
たり連綿と存続しており、万世一系と  
称される所以である。世界に類を見な  
い権威としての皇室こそが「日本の誇  
り」である。

権威は形而上的なもので、権力は形

而下の生存競争の手段と言える。言葉  
を変えていえば、権威は歴史や伝統に  
よって自然の中で確立された至高のも  
のであり、権力はこの権威によって正  
当化されると言えよう。

したがって、信長や秀吉、家康など  
の権力者が朝廷から閑白に叙せられ、  
征夷大將軍に任ぜられるなどして日本  
統治に当たった。今日、内閣総理大臣  
が天皇によって任命される伝統が確立  
してきたのである。

## 祭祀こそが皇室の重要事

しかも、天皇は司祭長のような存在  
で政治権力は有さず、在位の可否さえ  
も政治の判断に委ねられ、昨年8月8  
日の天皇のお言葉を受けて首相が私的  
諮問機関を設けて検討したのである。

天皇の仕事は国事行為に関するこ  
と、公的行為に関する事、私的活動  
に大きく3分される。国事行為は憲法  
に規定されている総理大臣や最高裁判  
所長官の任命などや憲法改正・法律・  
条約等の公布、国会の召集、衆議院の  
解散などである。

憲法には国事行為が明記されてお  
り、内外社会とのかかわり合いにおい  
て「国家の象徴」としての仕事である。

公的行為は国民的行事や国際親善の  
外国訪問などである。国会開会式・植  
樹祭・国民体育大会・慰霊祭・国会

始・園遊会などの国民的行事への臨  
席、国内巡行、震災被害者の見舞いな  
どは「国民統合の象徴」としての行動  
である。

外国への公式訪問や外国からの賓客  
の接遇、更にはオリンピックの開会宣  
言などは「国家の象徴」としての行為  
ではなからうか。

私的活動は天皇が皇室の私的な行事  
として行われるもので、研究活動や大  
相撲観戦などもあるが、もともと注力  
されていることは四方拝や新嘗祭など  
祭祀を中心とした諸事である。憲法に  
こそリストアップされていないが、祭  
祀こそが皇室の存在に関わる根本事  
であり、年間を通じ多くの祭祀が執り行  
われている。中でも、今上陛下は皇后  
陛下ともども熱心に取り組まれている。

両陛下は「皇室は祈りでありたい」と  
仰っていると聞く。ある事柄、事態  
に対処するのは国民の英知でしかない  
が、皇室はひたすらそのことに関して  
善かれと祈り続けられるというのであ  
る。今上陛下の御代には千年に一度と  
も言われた3・11（東日本大震災）や  
多くの災害・事件も起きたが、国民は  
陛下の激励などを受けて起ち上がって  
きた。

過去に例示されるのが仁徳天皇の思  
しめしである。村から炊事の煙が上  
がっていないことを憐れまれた天皇

は、税を3年間免除され、お住まいの屋根の破れからは星が見え、雨風で衣服や布団が濡れるのを我慢して、国民が豊かで幸せになることを祈り続けられた。

また、元国が日本に侵攻した文永の役では、当時15歳の後宇多天皇と御父・龜山上皇が寝食を忘れて神仏に祈り続けられた。国民は心を一つにして台風が吹き荒れる中で元軍と戦い、敵軍はほとんど全滅状態になり、日本侵略をあきらめたというものである。

### ローマ教皇が天皇に謁見

ローマ法王は12億人の信者を持つローマ・カトリック教会の最高司祭で、他宗派に対して「首位権」を持つカトリックの最高指導者であるとされる。「イエス・キリストの代理者」「ペテロの後継者」ともされ、英語圏では「教父を表す」Pope（ポープ）の愛称で呼ばれ、日本のカトリック教会は教皇の名称を推奨している。

教皇の主な仕事は、ミサや洗礼の授与といった宗教的行為や賓客・巡礼団との会見、海外を含む布教活動などである。また、教皇庁があるバチカン市国（1929年成立）の元首でもあることから、全カトリック教会の行政・司法の長としての役割も担っている。そのローマ教皇が英国を訪問しても

米国を訪問しても、教皇が女王や大統領を引見する。逆に言えば、女王も大統領も教皇に謁見する。世俗王より教皇の権威が上にあるということの意味している。

こうした中で、昭和56年2月24日に初来日したローマ教皇ヨハネ・パウロ2世は天皇に謁見したのである。2000年のバチカンの歴史の中で前例のないことだと言われた。天皇陛下の権威がローマ教皇より上にあることが事実として示されたのである。

権威を単純化して図式的に示すと、

「天皇▽ローマ教皇▽英国女王（米国大統領）」という図式である。皇室に権威があるのは、日本肇国以来2600年余の歴史がもたらしたものであることはいうまでもない。

ローマ教皇庁が天皇に敬意を表するということとは、「世界が認めた」ということである。その内実は、「世界最長の歴史」「争いの少なかった国家」「民族的融和」「自然との共生」「天変地異の克服」などが包含された「総体としての日本」であることはいうまでもないであろう。

### 外務省が日本をおとしめる

こうした誇りを有する日本であるが、国際社会の一部においては南京大虐殺や慰安婦問題などで糾弾されてい

る。事実でないにも拘らず、外務省が強硬に抗議したという話はない。

早い話が、国連特別報告者に状況を提供しているのは、反日的な日本人であり、反日団体である。しかも、事案を取りまとめ、日本に汚名を着せるユネスコの日本代表は、外務省の承認を受けて出向している人物である。マツチポンプ式に日本人が日本の汚名を作り出している。

慰安婦については、クマラスワミ特別報告者が報告した時、事実誤認が多々あることから外務省は反論書を準備した。それを提出して、外務省がしつかり反論すれば、状況は大いに異なったと思われたが、なぜか外務省はすぐに反論書を取り下げた。

しかも、外務省は、「日本は国際法を遵守した」「元慰安婦の女性たちに哀悼の意を表明してきた」「アジア女性基金（AWF）を設立し、償い金をお渡しした」などと遠回しに表現するだけであった。

これでは、日本はやましいこと（大虐殺、強制連行、性奴隷）をしたので、ズバリ否定しないのだと国際社会に受け取られても致し方ない。

### 漸く外務省が表立って「日本の真実」

を語った。内容は次のような趣旨だ。政府は強制連行の有無について調査したが、確認できるものはなかった。

流布した原因は、吉田清治氏が日本軍の命令により済州島で大勢の女性狩りをしたという虚偽を自著で書いたこと。朝日新聞がこれを大きく報道し国際社会に多大な影響を与えたからであり、朝日新聞は事実関係の誤りを認めた。また、20万人を慰安婦にしたという数字に裏付けはない。20万人という数字は朝日新聞が女子挺身隊と慰安婦を混同したことが基になっているなど、である。

これは、慰安婦強制連行などを否定する民間の団体や有志がジュネーブまで出かけて人権理事会で反論し、委員から外務省に問い合わせがあったからである。

宣伝戦は第1次世界大戦から多用された。欧州では真偽の追及が戦後行われ、戦時宣伝戦であったことが暴露され、虚偽は訂正され汚名は晴らされた。他方、大東亜戦争における日本の非道をとなえる中国と韓国はあの手この手を使って益々世界に喧伝しようと注力している。

南京大虐殺は蒋介石に始まる宣伝戦であったことが判明している。現場を視認した米国のジャーナリストは、「蒋介石はプリンターで戦っている」と書いた。

最近では、習近平がエリザベス女王招待の公式晩餐会で中国と英国の戦時

中の南京における友好の美談を披露したが、本人は南京におらず映画のために脚色されたものであったことが判明した。しかし、厚顔無恥な中国は、そ

うした創作を今だに事実であるかのよう  
に言いふらし、ユネスコの「世界の  
記憶」に登録する偏執狂ぶりを示した。

慰安婦問題については、韓国濟州島  
における強制連行が詐話師吉田清治に  
よる創作であったことが判明し、朝日  
新聞が関連記事18本を取り消した。し  
かし、河野洋平官房長官が発表した談  
話には「強制連行」の文言はなかった  
が、記者会見の席上で記者から「強制  
連行があったということか」と質問さ  
れた長官は「そのような理解で結構で  
す」と応じたことから、国連特別報告  
者のクマラスワミ報告などでは根拠文  
書として生き続けている。

こうして、韓国は事実の否定にもか  
かわらず、世界に慰安婦像や同碑文を  
ばら撒き、「世界の記憶」への登録も  
準備している。

おわりに

外務省はこうした事実無根の日本非  
難に対して、声を大にして反論するこ  
とがない。南京事件でも慰安婦問題で  
も闘うのは外務省であるが、ことごと  
く失敗してきた。事実に基づく歴史認  
識をもって中韓の主張に反論しないか

らである。国家の名誉よりも全権大使  
として赴任先で王侯貴族の生活を夢見  
る利己を重視する外務省は、「害務省」  
と揶揄されている。

米国では最近でも白人至上主義者た  
ちがデモ行進し、反対者と衝突したば  
かりである。日本は第1次世界大戦後  
の国際連盟の発足に当たって人種差別  
撤廃を提議したが、議長であったウイ  
ルソン米国大統領の巧妙な采配で否決  
された。

もちろん無欠陥の日本などとは言わ  
ないが、自由、民主主義、法の支配、  
人命・人権の尊重などの普遍的な価値  
については相対的に上位に列している  
日本である。

今後も中韓は嘘八百を重ねて日本糾  
弾に邁進するであろう。そうしたこと  
に外務省が適切に対応するためには、  
自国に誇りをもって過ちを敢然として  
訂正してもらう必要がある。偕行会員  
は、そうするための支えになるべきで  
はなかるうか。

### 訂正とおわび

7月号の短歌教室、伊東百合子様  
の投句「人の群れ足早やに過ぐ無機  
質の音のみ響く春愁の街」を、「春  
秋」と誤記しました。深くおわびし  
て訂正いたします。